

んな大昔をもちださなくても、武士の時代よりも変化し小さくなっていると言われます。このままやわらかいものばかり食べていると、アゴも歯も衰えて、発達し大きくなった人間の脳を支えることすら出来なくなるかもしれません。固いものを噛む習慣のある人は、顎関節がよく動き、その神経受容器はより刺激され、その刺激が脳に。脳は顎関節やそ

## 保育者として

れにつながる顔のあらゆる筋肉のすみずみに神経の命令を送り、どの筋肉も生き活きしてきます。私の希望的推測では、固いものに親しみ、よくかむ習慣がある人は、年とっても顔にシワなどできず、しゃべりかたもすっかりいつまでも若々しくいられると思うのですが。

(カイロプラクター)

吉川 真理

「かたい」というテーマを聞き、私の頭にすぐに思い浮かんだのは、初めて担任をした時に受け持った

Aのことでした。



のこと。特にこうしよう、という考えではなく、自然にそうなったようでした。自分の保育者としての甘さや至らなさ、自信のなさを更にした出来事です。私としては頑ななAが少しでもほぐれるようにと思いつながらも、結局は自分の方に引き寄せることしか考えていなかったのです。

それからは少しずつでしたがAとの関わりも変わっていきました。くすぐりっこや押しあいなどのスキンシップはとも好むことがわかり、とにかく毎日心がけるようにしました。それでも未熟な私は慣れてくるとすぐに友だちや遊びとつなげようとしてしまい、その度にAの心がフツと離れていく瞬間を感じ、反省を繰り返したものです。とにかくAがスキンシップを通して嬉しそうな表情をしてくれるだけでいいかな……とようやく思えるようになった頃から、Aが友だちに興味を示し、少しずつ遊ぶよ

うにもなっていました。

それでもAは園庭にだけはどうしても出ようとしませんでした。友だちが全員外で遊んでいても、誘われても、決して園庭にだけは出ません。さあ、次はどうでしょうか……ときっかけ作りに頭を悩ませたものです。

ところがある時、Aが私の足にしがみついていたので「大きな靴で重いな」と言いつつそのまま園庭へ出ると、嬉しそうに離れずにいたのです。それからは私が外へ行こうとすると、足にしがみつくようになりました。離れようとはしないので、実はとても重くて、自由に身動きがとれず苦しかったのですが、とにかく必死だったことを覚えています。

しばらくすると、小動物に興味を示すようになります。抱っこをするために置いてあったベンチのところだけでは、私の足から離れるようになりました。その時は私もベンチで密かにひと休みです。ある時

子どもたちが動物のえさを採しに園庭の隅へ行く  
と、Aも行きたくそうにしていたのですが、私は足が  
痛くてもう少し座っていたいと思ひ、近くにAの外  
靴をおいておきました。見透かされたように「また  
先生の足に乗ればいいじゃない」と言われたので、  
「先生も疲れちゃったな」と言うと、Aはすんなり  
と外靴を履き、草を取りに行つたのです。それまで  
みずから外靴を履いたことはなく、正直なところ靴  
を履くだろうとは思つてもいなくなつたので、とても  
驚きました。それからは自分から外へ出たり、私の  
足にくつついたり、の繰り返しでしたが、いつの間  
にかくつついてこなくなつたな、と感じるようにな  
つたのは、二学期も終りの頃でした。

表情も行動もかたいと思ひ込み、その前提でしか  
Aを捉えることができなかつた自分。また、拒否さ  
れるかもしれないことに不安もあり、知らず知らず  
Aに接する態度も消極的になつていたのかもしれない

せん。今考えると実は一番かたかつたのは私自身の  
心だつたのだと思ひます。「保育者としてこう導い  
てあげなければ」といつた考えにがんじがらめに  
なつていた私に、Aはたぐさんのことを教えてくれ  
ました。その場で感じたことを大切にせず、先ばか  
りを見通そうと焦つていたことも、Aは敏感に感じ  
取つていたのでしよう。思えばAが変化を見せてく  
れたのは、私がある時感じたままに、肩に力が入る  
ことなく行動した時であつたことがほとんどです。  
あれこれ思ひ悩みながらAと接するうちに、私にも  
柔らかさ、しなやかさというやうなものが少しずつ  
生まれていつたように思ひます。

保育者として経験を重ねている今でさえ、自信が  
なくなつたり迷うことはよくあります。でも初担任  
としての一年が、今でも私のかたい土台となつて支  
え続けていてくれるのです。

(大和郷幼稚園)